

区の防災用品からお貸しをしたというお話を伺っております。

それで、貸し出しの方法なんですが、避難所の運営面になるんですけども、毛布を簡単にいうと避難者に対して毛布要る人という呼びかけをされたということで、できれば体の不自由な人とかお年寄りの方に優先的に貸し出す方法がいいのではないかなというような住民のご意見もございましたので、それを付しておきたいと思えます。

また、あとそういった意味で、もう少し物資の備蓄も必要だと思うんですが、例えばですけども、館町南に防災倉庫というものがありまして、いろんな防災グッズが入っております。ですから、長井高校の避難所に何も資材を準備されてないとしたら、例えば館町南地区と協定なりを結んで、その防災倉庫の脇にでも置かせていただくというふうな取り組みも可能ではないかなというふうに思ったところであります。

あともう一つ、避難場所の件で、非常に体育館の床、冷たいということがあります。それはロールマットでカバーできるかなというふうには思うんですが、体の不自由な方とか、あるいは足腰の弱い方、そうした方が結構長い時間避難されるといった場合に、やはりベッド的なものがいいかなと思うんですね。

そのベッドなんですが、段ボールの組み立て式の簡易ベッドなどを準備しておいて、それを倉庫に保管しておく方法などが考えられるのではないかなというふうなことをひとつ提案させていただきたいと思えます。

市販でもあるような話をお伺いしますけれども、市内に段ボールのメーカーがあるわけですし、常には、段ボール板ですので保管もしやすいですし、いざとなれば、軽いもので、組み立てもしやすいというふうに思いますので、その辺についてはぜひご検討いただければというふうに思います。

余り時間もないので、本当は10分ぐらい前にやめたかったんですが、時間もないので、大きな2項目めについて感想を述べさせていただきますが、これも的確に市当局の皆様にご説明いただいて、大変勉強になったところであります。

私の言わんとするところは、方法とか器具はどうあれ、早く長井駅の西側が日の目が当たるようにきちんと、裏口でなく、長井駅の西口として存在できるように明るくしていただきたいと、こういう思いで照明が暗いという話をさせていただきました。

市長並びに建設参事からは、西側一帯を駐車場などの整備をしながら、市庁舎の建設にあわせて進めていくということですので、大変ありがたいと思っております。

市庁舎の完成とともに、駅西が明るくなることを期待しまして、私からの質問、閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

○平 進介議長 ここで暫時休憩いたします。

再開は午後3時20分といたします。

午後 2時57分 休憩

午後 3時20分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 渡部秀樹議員の質問

○平 進介議長 次に、順位10番、議席番号9番、渡部秀樹議員。

(9番渡部秀樹議員登壇)

○9番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。

緑風会の渡部秀樹です。一般質問2日目、最後の一般質問をさせていただきます。お疲れかとは思いますが、よろしく願いいたします。

季節は冬を迎え、日に日に日の出が遅く、夕暮れが早くなり、寒い日が続いております。

市民の皆様並びに市長を初め、市当局の皆様におかれましては、風邪などを引かずに元気に過ごしていただきたいものだと思う次第であります。

それでは、通告に従い、質問をさせていただきます。

質問は大きく3項目あります。一括質問で質問させていただきますので、順次お答えいただきますよう、よろしく願いいたします。

1項目めは、タスパークホテルの運営についてお聞きいたします。

タスパークホテルは、民間施設についての質問であります。答弁をいただく私も大変難しい案件であることは重々承知しておりますが、このタイミングでの問題提起を逃すことは、本市において、そして市民にとって不利益になるとの思いから質問させていただきますので、重ねてよろしく願いいたします。

また、このたびタスパークホテルについての質問をするに当たり、以前この件について問題を提起した蒲生光男議員の一般質問、現県議会議員、五十嵐智洋前市議の一般質問と決算総括質疑なども参考にさせていただきましたこと、報告させていただきます。

さて、本市は、市制施行以来、最大規模の公共施設整備のラッシュを迎えております。本年度完成した長井小学校の管理棟と昇降口、リニューアルオープンした旧長井小学校第一校舎、現在、長井駅と合築で進められている新市庁舎や改築中の市民文化会館、これから明確に市民の皆様にも動きが見えてくる新長井病院や新学校給食共同調理場の建設、そして、公共複合施設や道の駅附帯施設としての最上川河川緑地の

整備など、上げれば切りがありません。

また、行政にかかわる民間施設としても、まちなかの交流施設として期待されている本町のクロスバと、新菜なポートのオープン、さらに、純然たる民間企業としても、新長井病院とそれに付随したまちづくりに期待しオープンしたと思われる、ツルハドラッグ大町店や、数年前から続く住宅の建築ラッシュ、そして、県事業ではありますが、桐町成田線の本町通りの街路事業など、工事車両を見ない日はないと言っても過言ではありません。

私は、未来に責任のある世代の議員として、将来の市財政を気にしつつも、官民一体となって長井市の未来像に向かう姿を好ましく思うところであります。

このように、本市が新しい姿に生まれ変わろうとしている中、今後のタスパークホテルについて本市がどのように捉えているかによって大きくかわり方は異なってくると思います。

このような視点から、少しタスパークホテルについて掘り下げていきたいと思っております。

私は昔、東北自治研修所で都市計画と都市形成の講習を受講したことがあります。

そこで、アメリカの都市研究者、ケヴィン・リンチ氏の論文から、都市のイメージを構成する要素として、ランドマーク（目印）、パス（道）、ノード（結節点）、エッジ（縁）、ディストリクト（地域）の5つを上げ、特に目的を示すランドマークの存在が重要だと学んだ思い出があります。

タスパークホテルは建設から今日まで、その特異な形状とさまざまな機能から、明らかに本市のランドマークとして認知され、迎賓館的並びに式典用のなくてはならない施設として使われてきたと感じております。

施設内容は東北各地のシティーホテルとしては非常にまれな、25メートルの室内プールとフィットネス施設、複数の飲食施設、ラウンジを

持ち、ホテルの顔である吹き抜けの玄関ホールから2階へのアプローチは非常に都会的で、グランドピアノが似合うほどの風格さえ感じます。もし、階段と2階フロアのじゅうたんが上質で厚みのあるものであれば、ワインやウイスキーを片手にジャズピアノを楽しめる都会のしゃれた癒やし空間になるかもしれません。

このタスパークホテルに類似する施設は、主に海沿いや温泉地、スキー場などのリゾートホテルとして建設されることが多く、規模こそ違いますが、東北地方では、福島県いわき市のホテルハワイアンズや岩手県安比スキー場のホテル安比グランド、宮城県秋保温泉のホテル瑞鳳などの大型リゾートホテルをコンパクトにした施設に近く、都会のシティーホテルとしては、隣地に文化会館や十分な広さの公園を持つことから、池袋サンシャインシティプリンスホテルや、つつじ公園を付帯施設として考えれば、ホテルニューオータニ東京のコンパクトかつ地方版といった建築物であると感じております。

また、地理的条件などの視点からは、本市の中心街からの距離も近く、現在、再構築中である西置賜の中心としての本市のまちなかのにぎわいづくりにも貢献でき得る施設であると感じております。

以上は、あくまで私の考察であります。多くの市民を雇用してきた実績も加味しまして、貴重な施設であると感じております。

ここで、タスパークホテルをどのような施設として捉えているのか、また、これまで本市とタスパークホテルの関係についてどのように考えているのか、市長にお聞きしたいと思います。

さらにお聞きいたします。これまで本市は、タスパークホテルの経営支援のため土地を購入するなどの直接的支援や、経済産業省のソフト事業採択の支援などの間接的な支援をしてきたと思います。しかし、経済的支援後の経営状況やコンサルティング等の指導後の経営方針は大

きく変わらなかったように感じておりますが、経営状況や経営方針など、どのように改善されたと感じているのかお聞きいたします。

また、タスパークホテルは経営側と運営側の感覚に差異があるように感じております。そこを解消するために本市として協力できないか、さらに、どのような協力ができると考えているのかという視点から、今後のタスパークホテルのあるべき姿をどのようなものと考えているのでしょうか。また、本市とどのような関係がベストと考えているのでしょうか、お聞きいたします。

そして、タスパークホテルの運営に対して、今後どのような協力ができると考えているのか、市長に全てお聞きしたいと思います。

続きまして、2項目めの豪雨災害等の災害対策についてお聞きいたします。

近年の気候変動により頻繁に起こる局所的なゲリラ豪雨や梅雨、秋雨時の停滞前線、台風による豪雨災害、さらに、令和元年台風19号に起因する10月12日、13日豪雨による市内防災についてお聞きいたします。

1点目は、平成27年9月議会並びに平成29年3月議会で越流対策として遊水池や排水ポンプの提案等をさせていただき、内水対策として、河川網図の作成を急ぐことと、河川網図に基づく水害に強いまちづくりを目指し、総合的な河川計画を立て、整備を図っていくとの答弁をいただきましたが、その後の進捗状況について、市長にお聞きいたします。

2点目は、平成27年9月議会にも排水ポンプの設置について提案いたしました。内水対策としては、最上川の洪水到達時間前にいかに内水を排水できるかが重要な要素であると思えます。

そこで、まちなかを流れる河川として、南エリアと北エリアで最も多くの雨水が流入すると思われる野呂川と木蓮川への出力の高い排水ポ

ンプの設置について、市長のお考えをお聞きいたします。

3点目は、近年、消防団が水防活動に従事する機会が多く、台風19号に起因する10月12、13日豪雨の際には、消防団が市内を流れる河川から最上川本流に消防用のポンプで排水作業を行いました。消防用のポンプは少ない水で効果的に消火作業を行うようにつくられているため排水作業には向かず、これでは市民生活を守れないと、私も消防団員として実際に排水作業をして痛感いたしました。

そこで、市民生活を守るため、消防団に緊急排水用エンジンつき水中ポンプの配備を検討できないでしょうか、市長にお聞きいたします。

4点目は、国や県への要望についてであります。

まずは、10月12、13日豪雨の際に消防団として市内河川から最上川への排水作業をした折に、内谷市長、平議長を初め、市当局の皆様、議員団の皆様に励ましの言葉をいただき、まことにありがとうございました。皆様の激励をいただき、心が折れることなく、約5時間にわたる排水作業を務めることができました。まことにありがとうございます。

その約5時間の排水作業中、筒先を押しえながら、ラジオ、インターネットなどの情報を集め、川の流れを見ておりました。そのとき心配だったのが、1つに、満々として流れる最上川から住宅地や農地、商工業地帯への越流。2つに、危険視された最上川堤防の決壊、3つに、橋脚の破損につながる可能性のある流木の多さ、4つに、河川地にたまった砂や泥を土壌として生えた不要木の多さと、もとの川の流れがわからなくなるほどに堆積した砂や泥などでした。

そこでお聞きいたします。

豪雨災害時に最上川からの越流や堤防の決壊を防ぐためには、堤防の強化や洪水時の橋脚の破損の原因となる不要木の定期的な伐採、また、

雨水貯留量をふやすために定期的な砂や泥のしゅんせつを国や県に要望できないでしょうか、市長にお聞きいたします。

続きまして、3項目目の観光振興事業についてお聞きいたします。

第5次総合計画後期計画の観光振興分野で示される目標として、交流人口を増加させ、地域経済に貢献する観光とありますが、この裾野の広い観光産業について提案させていただきます。

初めに、スポーツ観光の振興と市民1人1スポーツの推進のため、ロードバイクやシティーサイクルの楽しめるサイクリングコースの設定について提案いたします。

スポーツ観光の振興をする上で大切な要素として、地元の方々がそのスポーツを気軽に楽しめるフィールドがあることと、地元である程度認知されているスポーツであることは重要な要素とされております。

本市は、市民活力によりトライアスロン大会を実施してきたというしっかりとした土台があり、競技車両であるロードバイクに対する認知度も高く、市内北西部の西根地区から南西部の平野地区の区間は自動車の交通量や歩行者の数も少なく、サイクリングコースを設定するのに適していると思われれます。また、市民1人1スポーツを推進する本市にとって、ロードバイクやシティーサイクルでの市内の美しい景観を眺めるサイクリングコースの設定は意義のある事業になると思いますので、市長のお考えをお聞きいたします。

2つ目は、観光振興講座の開催について提案いたします。

9月議会でも申しましたが、観光立国推進基本法には、地域が一丸となって個性あふれる観光地域をつくり上げ、その観光をみずから積極的に発信していくことで多くの観光客を呼び込み、地域経済を潤し、ひいては住民にとって誇りと愛着の持てる活気にあふれた地域社会を築

いていくことが観光立国に不可欠であるとの一文があります。

つまり地方自治体は、その自治体一丸とした観光地域をつくり上げ、観光資源とその魅力を把握し、積極的に発信していく必要があります。その観光地域としての目線統一の手段として、市民の方々を対象とした観光振興講座の開催について提案いたします。市長のお考えをお聞きいたします。

最後になりますが、ご当地キャラクターの設定について、市長にお考えをお聞きいたしたいと思えます。

6月議会ではご当地プリクラ、9月議会ではご当地ガチャの提案をいたしました。本議会ではご当地キャラクターについて提案させていただきます。

一時の熱狂的なブームはおさまりましたが、日本各地を旅しますと、ご当地キャラクターやご当地ゆるキャラが目につきます。観光地に至っては、さらに何種類ものキャラクターを持つご当地もあるほどです。

本市には、商工会議所で認定しているバーニック・ナガイはありますが、本市のご当地キャラクターには設定されていません。バーニックをご当地キャラクターとしてもよいと思えますし、新たなキャラクターをつくってもよいと思えます。

例えば本市ゆかりの戦国武将である伊達家の名将、初代、片倉小十郎景綱、2代、片倉小十郎重長の親子をかわいらしくアレンジしたキャラクターをつくるなども考えられると思えます。

ちなみに私は、昨年度、長井商工会議所青年部会の社会部部长として、長井商工会議所青年部会と白石市商工会議所青年部の交流事業のために、白石市商工会議所並びに白石城に11回ほど通い、観光事業のために有効なキャラクターの使い方と戦国武将、片倉小十郎でつながる長井市と白石市について学ばせていただきました。

白石市は、片倉家として白石城の2代目城主であった2代、片倉小十郎重長のゲーム、「戦国BASARA」のキャラクター使用権が認められており、毎年10月に開催する、鬼小十郎まつりの際にも「戦国BASARA」キャラクターの2代目、片倉小十郎重長をポスターに使用するなどし、祭りで2代、片倉小十郎重長を演じる方も「戦国BASARA」キャラクター風の衣装を身につけるなど、徹底しているようがあります。

全国的には数多くのご当地キャラクターにより観光客を地域に引き込んでいる事例があります。ご当地キャラクターは観光振興事業を推進する上で重要な資源になると思えますので、市長のお考えをお聞きいたします。

壇上からの質問は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部秀樹議員から大きく3点、私から全て、3項目12点にご質問、ご提言をいただきましたので、お答えをさせていただきたいと思えます。

一般質問にふさわしく、1対1でいろいろ議論を深めるということで、私の考えなども申し上げたいと思えますが、特に、最初のタスパークホテルの運営については、私まだ個人の考えでありまして、副市長を初め、市の幹部の皆さんとある程度議論して私が言ってるということではございませんので、そういったことでお許しをいただきたいというように思えます。

まず、最初に、タスパークホテルの運営について、議員から、タスパークホテルをどのような施設と捉えているのかという点でございますが、渡部議員初め、皆さんご承知のとおり、30年前にこのタスをめぐって市長選挙の争点になったということで、そういう意味では、なかなか私個人としては、当時は市の職員としてこの施設に派遣されておりましたので、地場産業振

興センターのほうへですね、なかなか言いにくいことなんです、語弊もあるかもしれませんが、私の考えを申し上げたいというふうに思います。

やっぱり一番は、市民の多くの皆様が、本当にタスってどういう施設、どういう目的でつくった3者、4者の合築の建物だったかということがなかなか理解できなくて、どちらかっていうと、ふたをしているような状況だと思ってます。

ただ、平成13年に、以前経営をしておりました民間の企業が破綻いたしまして、そして、それを商工会議所のほうで、このタスの持つ重要性から、特にホテルの部分ですね、東京とか市外、県外の資本による経営でなくて、やはり商工会議所で力を合わせてやんなきゃいけないんじゃないかということで、ホテルの部分を譲渡といえますか、買い取りまして、そして、商工会議所で今、経営してるわけでございます。

そういった意味では、大変特異ではございますが、当時、私も市議員を務めさせていただいてまして、その議案は、市のほうで補助金を、1億円だったと思うんですが、補助出したっていうのは賛成多数で、私も賛成して譲渡したと。あと、県からも補助もらってということなどがございました。

もともとタスが目指した一義的な長井市の新たな目標、いろんな目的があったと思うんですが、簡単に言えば、当時のコンベンション機能、あくまでもあそこの建物は、市民の皆様にもご利用いただけますけども、その多くのターゲットは外から長井に来ていただいているんな会議をしていただいたり、研修をしていただいたり、あるいは観光交流をしていただいて、そして地域を活性化させようということでもございました。あくまでもそれは、その拠点にしようということで、あそこの建物で完結しようとしたものではないんですね。したがって、ホテルの定員が

90名程度なんですよ。ですから、普通ちょっとした会議ですと、90名じゃ泊まり切れません。これはどういう理由で90名にしたかわかんないですけども、資金的なものなのかどうかかわかんないですけども、明らかに市内のビジネスホテル、旅館もしっかりと潤うようにと。だから、長井市が地場産業振興センターとして乗れたんだと思うんですが、そういった施設だと思っております。現在で言えば、地方創生という関係人口を創出する拠点にしようっていうことだったんですね。

ところが、選挙で、いわゆる視点が変わって、外向きじゃなくて、あくまでも市民のための施設だというふうな視点の営業に変わってしまったということで、結果として、市内の飲食店とか、ホテル、旅館と競合してしまったんですね。ですから、商工会議所が運営すれば、なおさら非常に消極的な経営にならざるを得ないだろうと。商工会議所が会員の企業の皆さんとホテルのお客さんを奪い合うことになるわけですから、これは非常に、私としては、これではだめだろうなっていうふうに率直に思っていました。

したがって、これからの方向性として、どういうふうな方向を見出していくかということは、当然、市が出資しておりますというか、責任があります、一般財団法人の地場産業振興センター、こちらが建物の52%弱を持ってるんですね。

ですから、ちょっと話があちこちで申しわけありませんが、長井市は平成10年前あたりから財政再建に取り組んでるんですが、具体的には、平成12年から5年間の財政再建5カ年計画、そして平成18年から22年までの集中改革プラン、その前後含めて15年ぐらい財政再建を行ってきたんですが、当然、一般会計の借金と、それからやっぱり大きかったのは、公共下水道などの特別会計の負担が非常に大きかったと。あとは、約30億円近い土地開発公社の隠れた借金があっ

たと。そして、当時、平成の1桁台は金利が高くて、5%、6%なんてのはざらにありましたから、そういった金利でも借金がどんどんふえていくという中で、人もそれなりにいましたので、人件費がもう財政の3分の1近く占めるような時期もありまして、それらをずっと15年かかってやったんですが、私個人としては、財政再建の後半の部分を、市長に就任させていただいて担当させてもらったんですが、実はこれはタスも問題だと思ってたんですね。

平成の20年以降はもう借金は返し終わってましたけども、ただ、地場産業振興センター部分と、いわゆる民間の業界部分っていうのが破綻したもので、やっぱり地場産業振興センターで持たざるを得なかったと。損失補償契約を、債務負担行為をやったと思うんですね。それとあと、いろいろな関係があって、ここも負担しなきゃいけないっていうのがあって、それらが30億円ぐらいあったと思うんです。それは終わってました。でも、なおかつ、やっぱり財政再建のときは年間2億5,000万円ぐらいですかね、その借金も含めて、3億円近い。でも、ちょっと前までは1億円を超えてたんですね。今は7,000万円、8,000万円ぐらいでなってますが、やっぱりタスパークホテルがどんどん赤字がふえますと、ランニングコストの部分は我々5割以上は持たなきゃいけないわけですから、構造としては、ホテルで頑張ってもらわないと、我々の、いわゆる部屋を貸すということしか収入がないわけで、それらがどんどん先細りで、負担だけは減らないということでございましたんで、これが最終的な目標だというふうに私は捉えておりました。

したがって、渡部秀樹議員からもありましたように、財政再建で集中改革プラン終わったときに、議会の皆様からご賛同いただいて、商工会議所の経営がなかなか大変だというふうに伺ってたもんですから、じゃあ、底地の部分だけ、

私ども市のほうの、地場産センターが半分以上持ってますんで、所有させてもらって、そして、その部分で繰り上げ償還して、もう一回再起ということで期待しておったんですが、なかなかやっぱり会社自体ももう内向きにシフトしてて、外への営業とか、なかなかもうその部分そのものがなくなりましたんで、非常に厳しいんだろうというふうに思っておりました。

今後のことにつきましては、その前に平成26年ですね、一応、経産省の補助事業でタス再生のための1,000万円弱の、960万円ぐらいだったと思うんですが、10割補助をいただいて、もう一回、再生計画をつくるきっかけを提供したんですが、やっぱりわかってもえませんでした。それぐらい、商工会議所で経営するっていうのはいろんなしごらみがあって難しいんだろうなと思ってます。

現在は、私ども地場産センターと市の商工観光課、また、会議所のいろんな部門の方とか、コンサルなんかも商工会議所さんで委託などをしながら、タスの今後について、今きちんと段階を踏んで計画を立てて、探っていこうということで努力しておりますので、それを注視したいというふうに思いますが、何せ30年たってる建物なものですから、相当傷んでて、やはりこれはあんまり放置しとけないなど。したがって、市でどんなことをやれば、どんな支援をすればあのタスをもう一回再生することができるのか、そういったことを今後、私ども内部で、市役所の内部はもちろんですが、いろんな団体、あるいは有識者、そういうホテル経営のコンサルとか、やっぱりいろんな方々いらっしゃるわけですから、そういった方々からもご助言などをいただきながら、探ってまいりたいというふうに思ってます。

ここで最後に言わせていただきたいのは、ただ、あの建物があったから30年間、長井は何とか西置賜の拠点として、また、さまざまな全国

的な、あるいは県内の会議等々を持っていくことができ、辛うじて長井市っていうのはまだ頑張ってるんだということを証明できるような、そういったランドマークの、ランドマークタワーっていういいですかね、そういった位置づけで、これは渡部議員と同じ認識でございます。

(1)については、①から⑤まで一つ一つご提言いただいたんですが、相対的なこと、ただいま答弁したことについてちょっといろいろまた討議できればというふうに思いますので、ご意見いただきたいと思っております。

続きまして、2点目の豪雨災害等の災害対策についてでございます。

渡部議員からは、先週の金曜日、浅野議員とか、鈴木一則議員からも、渡部正之議員からも、きょうは竹田議員と鈴木裕議員からも防災についていろいろございましたけども、消防団の団員として、実際、その排水の水が、何でしょうか、たまってしまって、危険な状況のものを土のうを積んで、水が広がらないように、敷地に入らないようにしたり、建物を守ると、その排水をしなきゃいけないっていうところのご提言だと思っておりますので、重く受けとめております。

こちらの、例えば水中ポンプ、緊急排水用のエンジンつき水中ポンプ。これは確かにいいだろうなっていうふうに思います。

あとは、野呂川と木蓮川の水門に出力の高い排水ポンプの設置。こういったところも実際は、場合によりまして、大きな威力を発揮するというふうにも思っております。

長井は羽越水害以降、ちょくちょく内水被害で床下、床上っていうのはありましたけども、近年ですと、25年、26年ですね。排水ポンプっていうのは、基本的にないんですよ。やっぱり太平洋側のほうは結構そういうふうな、いわゆる排水ポンプを設置してもらってる河川っていうんですか、堤防沿いの市がありまして、そう

いったところの話をいろいろ聞いておりますが、やっぱりポンプを高いところに上げないと、いわゆる堤防と同じ位置ぐらい上げないと、いざ実際、内水になったときに使えないというのが多々あったそうです。ですから、エンジンつき水中ポンプっていうのが、それをカバーできるわけですね。

ただし、今回みたいに内水よりも最上川の本流のほうがどンドンどンドン水位が上昇すると、排水できないんですよ。ですから、例えば長井にいっぱい雨が降って、まだ本流はそんなに水位が上がってないときに排水するっていうのは、そんなに危険が迫ってませんので、それは可能かもしれませんが、今度、本川のほうですね、本流のほう水位が高くなって、もう越水しそうだと、堤防が決壊しそうだったときは、もう消防団員も近寄るべきじゃないので、ですから、そういったときは用を足さないですね。

したがって、これらについてはいろんな事例が、特にことし、去年と集中豪雨でかなり状況が変わってきてますので、何が有効か、あと、長井にとってはどういう排水ポンプが適してるのか、その辺なども見きわめながら、ぜひ、議員おっしゃるのもごもっともでございますので、検討してまいりたいというふうに思っています。

あと、この項で豪雨災害による越流を防ぐため、堤防の強化や河川沿いに繁茂する不要木の伐採、たまった砂や泥のしゅんせつを国や県に要望できないかっていうことですが、こちらについては、ご案内のとおり、もう私どもはずっと言い続けてるわけですね。やっぱり25年、26年の集中豪雨を機に、県のほうも、主に県の河川が多いんで、かなりしゅんせつを計画的にやっていたいております。また、支障木の伐採も、特に野川の、最上川の本流と合流する周辺は、野川橋の下流のほうですね、非常に繁茂してまして、そういった伐採木も来年、伐採して

いただくような方向で県のほうで検討いただいとるということでございます。

あとは、特に最上川の治水に対する要望というの、最上川は置賜が上流、それから村山も上流なんです。新庄、最上地域が中流、庄内は下流ってということで、4つの協議会に分かれてまして、置賜の協議会は、以前も申し上げましたけども、長井市が理事長を務めるということで、私が期成同盟会の会長をしておりますので、全国的な治水の会議であったり、あと東北の治水の会議なんかは、東北では副会長とかしてまして、そういったことでいろんな意見を申し上げておりますし、幸いにも長井市は置賜の中で一番恵まれてるっていうか、整備をしていただいとる。

今年度から最上川官民連携プラットフォームというのを設立いたしまして、置賜野川や置賜白川などの一級河川については、重要事業の要望書ということで河川砂防事業の推進等に要望を行っており、先ほど申し上げましたように、最上川の官民連携プラットフォームということで、国、県、市、あと民間一体となった支障木対策が施行されます。ことし中に最上川河川緑地公園北側から置賜野川合流地点まで着手するという予定でございます。

また、山形県でもことし3月に河川流下能力向上緊急対策計画を策定いたしまして、特に河道内の堆積土砂の撤去による治水安全度の向上に取り組んでいくということでございますので、これ着々と進めておりますし、まずもってこれは真っ先にできることなので、国や県のほうにさらに要望してまいりたいというふうに思っております。

続きまして、3点目の観光振興事業でございます。

渡部秀樹議員からは観光振興事業についていろいろご提言をいただいとる。今回は、スポーツ観光振興と市民1スポーツの推進のた

め、ロードバイクやシティーサイクルで楽しめるサイクリングコースの設定をしたらいかかということ、これはいいところをやっぱりご提言いただいとると思っております。

私どもの場合はフットパスということで、散策できるような、そういう河川沿いの散策路を整備いただいとるわけですが、これをさらに充実させようということをしておりますが、一方で、とりあえずは一つの節目ってということで、民間の皆様がなさったトライアスロン、今度、違う形にということで、私どもも来年以降どうするか、いろいろ協議しなきゃいけないんですが、あの中で、当然ロードの、自転車のコースがあるわけですね。そういったこともありますし、あとはスポーツはいろんな形で、日本中がいろんなスポーツが盛んになってるんですが、議員おっしゃるようなロードバイクってというのは非常に定着して、どんどん広がっております。この辺ですと、隣の飯豊町とか白鷹町もコース設定されてるそうですが、一番進んでるのは高島町なんですね。高島町は自転車の専用道路などもつくってもらったりしてまして、私はこれ非常にいいなと。長井もそういうものもぜひ手を挙げて、整備をお願いしていきたいというふうな考えもあるんですが、まだ具体的に、ちょっと私も長井では、観光協会を含めた、民間の皆様もそういったところまでまだ考えておりませんので、ぜひ今回のご提言を機に、観光局とか、あるいは観光協会、あとは私ども行政のほうでも一緒になって方向性を探ってもらいたいと思っております。

なお、昨年なんですけども、置賜地区内の道の駅をチェックポイントとしたサイクリング企画が実施されまして、多くの方が川のみならず長井のほうにお越しになったと伺っておりますが、結構、隠れたブーム、この辺ではですね。もう全国的には本当にふえておりますけども、こういったところにも目を向けながら、少しでも、健

康にもいいわけですしね、こういった新しいスポーツなども振興してまいりたいと思います。

続きまして、この項目の2番目の観光振興講座の開催についてでございますけれども、こちらについては、議員おっしゃるのはごもっともでございますが、地域一丸となった観光地域づくりを進める、市民の理解、市民の協力があってこそやっぱり本当の意味での観光地域づくりを進めることができると思っております。

まずは、2市2町でつくりました山形アルカディア観光局、DMO、これは一つの旅行会社なんですけども、今、まずはこの観光についての市民の皆様の理解を深めようと。観光の連携DMOって何だということも含めまして、2市2町にインナープロモーション、市民の皆さんに、住民の皆さんに理解していただくということで季刊号を発刊したところで、まず、第1号は南陽市の特集でございますが、次、長井市とか白鷹町、飯豊町とか、まず住民の皆様に観光局って何の目的で、実際何をするのかと。我々住民、市民は、どうかかわるべきか、関心ある人は、いろんな形で応援していただけるような、そんな機運をつくんなきゃいけないというふうに思っております、その一つとして、やっぱり観光振興講座というものも非常におもしろいっていうか、重要だと思っております。

長井市では、今年度の取り組みでは、長井検定っていうのを以前からずっとやっておりますが、これを実施いたします。市民の皆様に長井市のことをより深く知っていただくとともに、観光案内ができる人材の育成という趣旨で行うところでございます。

観光ボランティアガイド、黒獅子の里案内人もなかなか高齢化が進んで、次の世代の人たちが入会してくれないということで、必死になって声をかけていただいておりますが、やはりこういった講座なども頻繁に行って、観光に対しての理解を深めてもらおうと。あとは、やはり65歳

までの定年ってというのは徐々に一般の民間企業でも、社会的にも、65歳ぐらいまでみんな働かなきゃという意識から、今度はもう70歳とか、できるだけ税も控除もしてくれるようだし、年金に影響ない範囲でということで、やっぱりこういう観光にかかわりながら、社会にかかわっていくという新しい生き方なども模索されてるようでございますんで、ぜひそういったところで検討したいと思っております。

済みません、長くなりました。

最後に、ご当地キャラクターの設定についてということですが、まずは長井市のゆるキャラによる観光PRについては、長井商工会議所の公認キャラクターであるバーニックについて、これまで市内の各お祭りに出演いただいたり、市外のイベントに出向いた際に同行したりと、長井市のPRに一役買っていただいております。これは商工会議所の青年部会のほうで、みんなで作ったキャラクターということで、大変、私ども誇りに思っております。

それ以外に長井市のイメージキャラクターということで、6種類あるということでございます。祭りのチラシ等で長井市のPRに役立てておりますが、黒獅子まつりのイメージキャラクターとなっている、ししまいく、ししまいこ、あやめまつりのイメージキャラクターとなっているあや姫は長井北中まちなかデザインプロジェクトで誕生いたしまして、北中生徒のデザインを長井の観光PRに使用させていただいております。

このように、それぞれのキャラクターとしてはその都度活用しておりますが、着ぐるみ等で動いて活躍してるのはバーニックのみという状況でございます。バーニックをご当地キャラクターとしての設定というご提案や長井市ゆかりの戦国武将の活用も提案いただいたところですが、こうしたゆるキャラやB級グルメを前面に出して、注目を浴びて人気を得るという観光P

Rも一つの有効な手段だと思えます。

一方で、ただそれだけが前面に行きますと、長井市っていうのは本当どういうまちかっていう、そういったところがちょっと隠れてしまうところもありますので、やっぱりお互い補完しつつ、注目を浴びるっていうことは大切なことですから、ぜひ、こういったゆるキャラ、B級グルメも大切にしながら、地域全体で市民一体となって観光振興に取りかかってまいらなきゃいけないと考えているところです。

○平 進介議長 9番、渡部秀樹議員。

○9番 渡部秀樹議員 答えにくい質問もあったかと思いますが、答弁いただきましてまことにありがとうございます。

タスパークホテルの件について再質問を二、三させていただきたいと思えます。

内谷市長もタスパークホテルには、タス時代からさまざまな思い出、思い出があるかと思えます。

私も中学生時代、長井北中水泳部、南中水泳部、長井高校、一部、小学生でタスのプールですね、長井市と長井水泳連盟のお力をおかりしまして使わせていただきまして、そのとき、長井北中水泳部ですね、毎日、数千メートル、多いとき1万メートル泳いで、全国大会まで泳いでできました。本当に使わせていただいて、とても助かったなというのと、あのような立派な施設を使えるということは、選手からしても、本当にあり得ない、レベルの違う待遇を受けたとは、子供ながらにひしひしと感じました。あのころのワンストローク、今の私のこの頑丈な体と心をつくってくれたなと思っております。そのときの水泳連盟の方々、市の方々に本当に頭が下がる思いであります。

このように、私だけでもこの思いがありまして、先ほど市長の思い出もお聞きしました。市民の皆様、さまざまな思い出があると思えます。後ろにおられます先輩議員の蒲生光男議員

は、タスがなくなったら長井は終わりだと公言するほどタスのファンでもありますし、私も同様に、長井が西置賜でタスがあるおかげで長井だぞと、ちょっと威張れたというか、ランドマーク的になっていたのは間違いないと思うんですね。

この30年前につくられたタスですね、今現在、さまざまな問題が積み上げる形で見えてきてしまってると思うんです。これを改善できるのは内谷市長だけだと、現在そう思っておりますので、どうかよりよい方向へと、先ほど私見もお聞きしましたが、市全体の話として積み上げていただきたいと思う次第であります。この件について、市長、一言お願いしたいと思えます。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部秀樹議員おっしゃるように、このタスについては同じ考えを持っていただけてるんだなと大変心強く思ってます。

ただ、あそこ、ホテルというよりは、本当の一流、超一流ホテルのミニ版なんですね。8階に、みんなばかにしてましたけど、貴賓室ってありますけど、ああいう部屋があるっていうのが、やっぱりステータスじゃないんですけども、それが実は世界基準、標準なんです。ですから、それがちょっと誤解されたのは残念なんですけど、やっぱりその誤解は、もうこれから時代は変わってますんで、何か官房長官が、国内に50ぐらい一流ホテルをつくるんだっていうことで何かいろいろ問題になってるようですが、問題じゃないですよ。やっぱりそういう時代なんですよ。

したがって、私どもは一流ホテルのミニミニ版ですけども、これが大変、今、傷んでますので、そして、その機能がどんどん弱くなってますから、もう一回再構築をしよう。そのときに会議所は、あるいは我々市は、あるいは市内の民間企業はどういうふうにかかわっていくべ

きなのか、そういったところをやっぱり議員の皆様といろいろ議論しながら、ぜひ、あの建物をもう30年も頑張って維持したわけですから、もう一回生まれ変わって、次の世代にきちっとつなげるような財産として、もう一回生まれ変わらせるような必要性があるんじゃないかなど思っているところです。

○平 進介議長 9番、渡部秀樹議員。

○9番 渡部秀樹議員 ありがとうございます。

今、市長のお話をお聞きしまして、私も思っていたところと同じだったんですけど、この30年という時間をかけまして、かつては、何でこんなものと思ったかもしれませんが、これからは必要な施設として確実に機能すると思います。

といいますのは、先日、海外からお客様が来られた折、この階の委員会室でお迎えしましたよね。あれを見たとき、私ちょうど議会報の編集のためにちょっと来てたんですけども、その国旗を並べて席を準備する姿を見て、日本を想像してきた方に、この余り今の日本らしくない施設が今この階にある委員会室だったかなど。我々は見なれてます。しかし、エアコンと空調設備もまるで昭和の代のようなものがいまだに大事に使っていると。それはとてもいいことなんですけども、決して、貴賓と言われる方ですね、迎賓するという立場からすれば、ちょっとふつり合いな状態だったかなと思います。新しい新庁舎できましたら、それは変わってくると思うんですが、しかし、迎賓する施設としては、庁舎というところは仕事場所なので、余り向かないと私は思います。何でタス使うのやて言う方、やっぱりかつていましたけど、これからはタスでなければできないと、このホテルでなければできないという使い方を提案していけるような、そんな強い組織にしていかなければならないと私は思います。

しかし、一議員として、そこ、経営に口出すこともできませんので、ここは市長の立場から、

経営指導を力強くしていただくほかない、この場をかりてお願いするほかないと思っております。

済みません、もう一言この件についてお願いしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私はそんな能力はないんですけども、やっぱり長井市でどういうふうな支援体制とか、会議所さんと一緒に何かやるっていった場合、全て議会のご承認、ご協力がないとできないわけですから、やっぱりこの件も、もう今本当にみんなで議論し合いながら、一つの方向性を見出していかないと大変なことになるかなど私は思ってます、本当はもっと早く、来年、東京オリパラですから、そのときにいっぱいいらっしゃるんですよ。

ですから、そういったときに、果たして、今このあそこのホテルしかないわけですよ。何百人とか、市民も含めて300人も集まれる、400人も集まれる、ないので、ですから、そういったことなどももう必要に迫られてるんで、そういったところもぜひ議会の皆様と議論しながら、何か手を打っていくというようなことをご理解いただきたいと思います。

○平 進介議長 9番、渡部秀樹議員。

○9番 渡部秀樹議員 ありがとうございます。

まず、力強いお言葉だと受けとめておきます。我々にはこれを改善する能力はない、市長という立場であればきっとできると期待しております。

続きまして、2項目めでありました豪雨災害時の、特に水中ポンプというか、排水ポンプの話ですね、エンジンつき。消防団のほうのものになると思います。

当初は、消防団の排水ポンプというのは頭になかったんですが、実際、消防の消火活動用の筒先を握っているときに思ったんですよ、用途が違うと。物すごく勢いよく水出ますが、立米数

は大して引っ張れないんですね。その間も、水圧がおさまってきたので足で挟んで、座ったり立ったりしながらあのホースを、筒先を押さえて、インターネットで情報をいろいろ検索した中で、やはり一番有効だと思われるのが、今回のような場合ですよ、消防団の川を持つエリアでも構わないと思うんです。そんなに数、一気に準備できないと思いますので、緊急排水用ポンプの各消防団への配備を、必要性を強く感じましたね。

この件について、市長にもう一度お願いしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ぜひ取り入れたいんですが、問題は財源ですよ。お金がなくて、いや、大丈夫だなんて思うんだったらいいんですが、何とも言えないですね。来年は本当に大変で、やっぱり皆様から、議員の皆様からもいろんな提言いただいていますし、さまざまなことやらなきゃいけないんですが、それだけの果たしてお金を用意できるかというのがやっぱり課題だと思っています。

したがいまして、緊防債みたいので買えるものなのか、1機どれぐらいのものなのか。消防団は新活動服もありますしね。あれ1着、定価で3万円ぐらいしますんで、それも700人近くそろえなきゃいけないわけですから、そういったことも含めて、総合的に。

ただ、できるだけ早くしなきゃいけないなど思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○平 進介議長 9番、渡部秀樹議員。

○9番 渡部秀樹議員 ありがとうございます。

市長には、消防団の装備に関しては物すごく近代的にさせていただきました、当日、10月12、13日夜、寝ないで私も過ごさせていただきました。その間、あの装備がなければくじけたと思います、本当に。そのぐらいの装備でした、そ

のぐらいの状況でした。朝方、寒くて震えるほどでした。

このポンプに関しても財源、行政仕事、何でもそうです。初めに予算ありきです。私も存じております。ですので、緊防債等を使えるのであれば、それを使うという形に持って行って、市財政を脅かさない程度に、市民生活を守る、そういった装備を整えていただきたいと思う次第であります。

私からは以上となります。ありがとうございました。

## 散 会

○平 進介議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 4時19分 散会